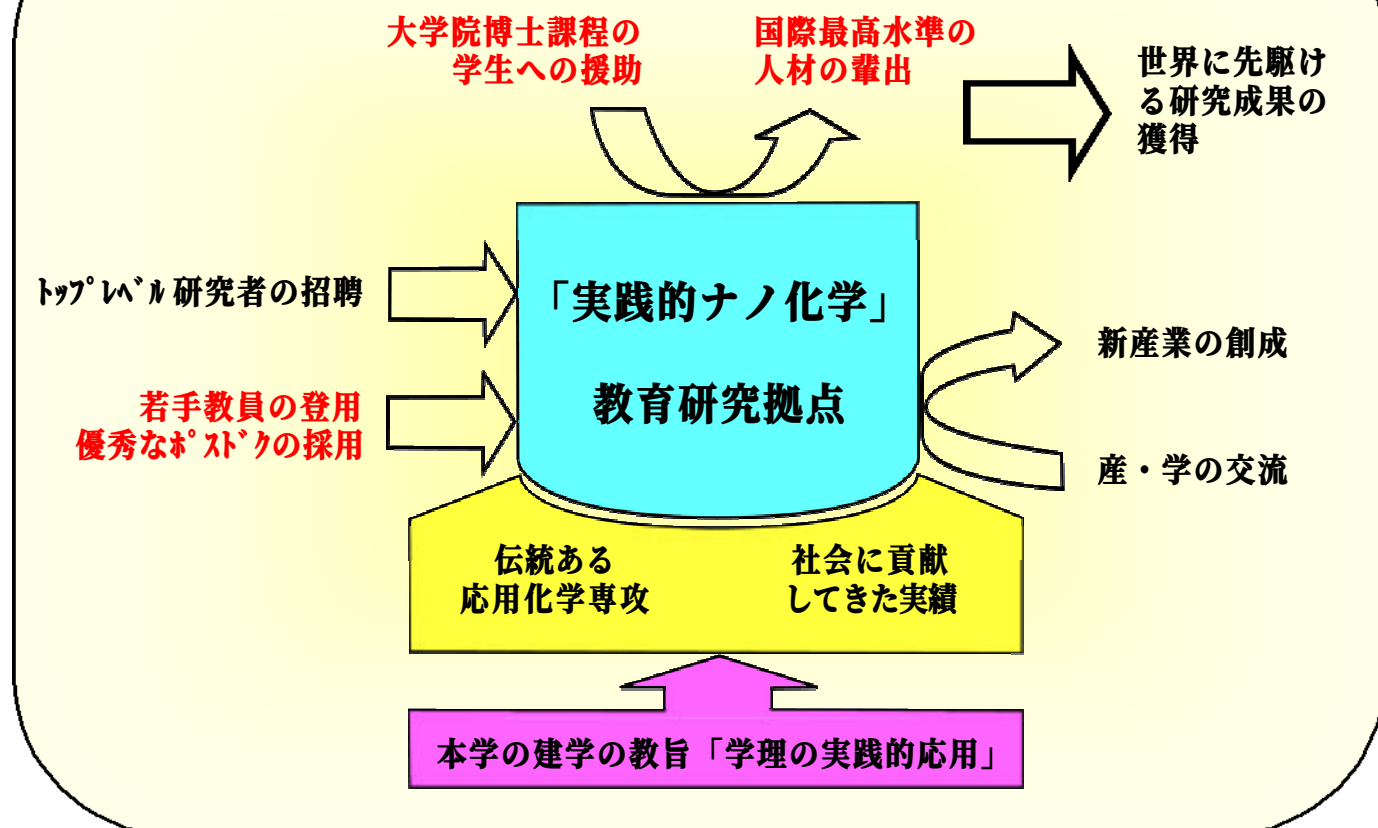


(様式1)

大 学 名	早 稲 田 大 学	学 問 分 野	化学・材料科学
専 攻 名 等	理工学研究科：応用化学専攻、化学専攻、生命理工学専攻、電気工学専攻、電子・情報通信学専攻、ナノ理工学専攻		
拠点のプログラム名称	実践的ナノ化学教育研究拠点		
拠点リーダー氏名	竜田 邦明	所属部局・職	理工学研究科 応用化学専攻(生命理工学専攻)・教授
プログラムの概要	新産業の創成に貢献できる人材の育成および知的資産の創出を目的としている。分子科学に立脚して学際領域も融合したナノスケールの化学を主軸として 社会との強い連携のもと実践的に教育・研究する世界最高水準の教育研究拠点「実践的ナノ化学」を実現する。		
拠点形成の目的・必要性	本専攻グループの高い教育研究実績と特出した研究成果を基盤として、「実践的ナノ化学」の指針のもと学際領域に踏み込みながら 社会および各国研究者らとの密度高い共同研究を実施し、新産業創成に貢献できる国際的な最高水準の人材育成を目指す。実践的な研究から期待されるプライオリティ高い成果は、実用技術に直接繋がるものである。本学の建学の精神「学理の実践的な応用」に基づきその支援もあわせ本拠点形成を遂行し、実社会の教育研究機関への要望に応える。		
研究拠点形成実施計画	分子間相互作用や電子授受を分子レベルで理解する視点に立ち、ナノスケールの分子または構造体を実践的に合成、構築する研究教育を、事業推進担当者の特色ある手法で実現するため、本拠点に、「分子ナノ科学」、「ナノ合成化学」、「精密プロセス」、「応用ナノ化学」、「ナノエレクトロニクス材料」の5部門を設置し、社会に貢献する「実践的」な切り口で研究姿勢を同じくし、相乗的かつ連動して研究展開する。まず、本中核研究施設を水準高く環境整備するとともに、博士課程学生を主対象とした教育研究プログラムを推進する。		
教育実施計画	若手研究者の参画と支援：質の高い若手研究者をポスドクとして採用し、大学院学生が参加した共同実験・研究を促進させ、スピーディな研究の展開と独創的な研究成果の創出を目指す。 人材の輩出：年間30名の博士学位取得者を質高く輩出すべく、博士課程在籍者より60名選抜して経済的に支援する。 トップレベル研究者の招聘：世界トップレベルの研究者を招聘し、博士課程学生との交流の場を設け、研究の「哲学」に密度高く接触する機会などを通して、実践的に研究を進める「考え方」を啓発する。		

国際競争に打ち勝つ 科学技術立国



5部門の 相乗的連携

